

## 5.8.1. 定義:

この競技はラジオコントロール スロープグライダーのスピードを競う競技。

## 5.8.2. ラジオコントロール スロープグライダーの定義

セクション4B(模型飛行機の製作者)パラグラフB.3.1の a)はF3Fに適用しない。

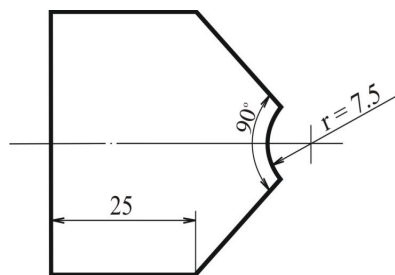
最大翼面積 150dm<sup>2</sup>

最大重量 5Kg

翼面荷重 75g/dm<sup>2</sup>以下

いかなるタイプの自動操縦機構による、舵面のコントロール及び機体諸元の変更を禁止する。

胴体先端の半径は、7.5mm以上 (下図ゲージ参照)



## TEMPLATE FOR NOSE RADIUS AND MARKING

ラジオは、割当られたR/Cバンドで周波数間隔を守り、他の器材と同時に使えなければならない (すなわち35MHz:10kHz)。

競技者は、コンテストで3機の使用が可能。競技者は、規定の範囲内でこの3機の部品を組み合わせて使用することが可能。バラストの(内部への)追加と、取付角の変更は許される。また、外部からのコントロールによる形状及び面積の変更も許される。

競技飛行中は、飛行機から直接空気の状態や飛行の状況をフィードバックする技術の使用を禁止。

そのほか、直接飛行を制御しない(電話、携帯無線電話、対気速度と高度の遠隔測定法その他)、温度検出装置(熱結像カメラ、温度計その他)、光学援助(例えば双眼鏡、望遠鏡その他)と距離/高度測定装置(GPS、レーザー測距器その他)も使用を禁止。但し、テレメトリー装置を用い、受信機の受信状況とバッテリーの状態監視は許される。視力補正の眼鏡とサングラスは、この規則の違反の場合、競技者は競技から失格とします。

## 5.8.3. 競技者と助手

競技者は自分で操縦しなければ行けない。競技者は一人の助手をつけることが可能。助手は、最初のA,Bベースを通過の時迄と競技終了後にのみ補助と助言のみ可能。

## 5.8.4. 公式飛行の定義

競技者または助手の手から離れた時から、一回の開始とする。

## 5.8.5. 飛行の回数

競技者は一回しか公式飛行が出来ない(1ラウンド内)。

以下の条件の場合、再飛行が認められる。

- 競技者のコントロール以外の理由で、発航が妨げられたと審判が認めた時。
- 競技者の飛行機が他の飛行機と衝突した場合で、競技者に責任がない時。
- 飛行が正しく計測されなかった時。
- ランチエリアに設定された水平面より上に、発航後5秒以内に競技者の意思に反してコースイン出来無かったと、ジャッジが判定した時。(無風他の外的要因)

再飛行が発生した場合現地と周波数の考慮の上、できるだけ速やかに実施。もしその機体が空中に飛行可能な場合、機体をランチ高度とランチスピードに戻して新たな競技開始前30秒から開始される。

#### 5. 8. 6 飛行の取り消し

公式飛行が終了し如何なる結果で有っても、以下の場合には公式記録は0とする。

- a) 競技者がFAIルールに違反した機体を用いた時
- b) 飛行中に部品脱落の時
- c) 助手が計測飛行中にアドバイスの時
- d) 競技者以外が操縦した時
- e) 飛行が完了しなかった時
- f) 機体が決められた着陸エリア外に着陸の時
- g) 開始合図から30秒以内に発航されなかった時
- h) ランチエリアに設定された水平面より上のコース上を 5秒以内に通過しない時
- i) A面ジャッジが機体がコースインしたと判断出来なかった時

#### 5. 8. 7 競技運営

競技はラウンド毎に実施。競技順は、使用する周波数が重ならないように抽選で決める。

競技者は、レディボックスに呼び出されてから3分間の準備時間が与えられる。

3分経過後、スタートの合図が行われる、競技者及び助手は、スタート合図後30秒以内に指定された発航エリアから、発航しなければならない。

音声機器と発航エリア、可能な限りA,B面の中央に設置の事。

発航後スピードコースには、30秒以内に進入しなければいけない。もし機体が30秒以内にスピードコース(B面に向かって最初にA面を通過)に入らなかったならば、30秒経過後直ちに飛行時間が開始され、30秒以内にコース進入しなかった事をジャッジから知らせる。

#### 5. 8. 8 競技飛行

競技は100mのコースを10回飛行し、最初にB面に向かいA面を通過後から時間の短さを競う。

もし障害物その他によって100mの距離が取れない場合短縮できるが、最低80m以上でないといけない、この短縮は、世界選手権又は大陸選手権には適用されない。

競技者の機体は、A,B面ジャッジに見えなければいけない。

#### 5. 8. 9 スピードコース

スピードコースは斜面の端に沿って配置されて、2つの明らかに見える旗で、両端でマークされます。両端で飛行機旋回が相互に平行で斜面と直角をなすことを、主催者は確実にしなければなりません。状況に従い、両面はそれぞれA面とB面と記されます、そしてA面は公式開始面です。

A面が競技開始面となり、A面とB面で、機体の一部でもスピードコースを超えたとき、公式計時員は、音にて知らせる、さらにまた、初めてのB面に向けた機体のA面信号が飛行計測開始となる。

#### 5. 8. 10 セーフティー

A,B面の観測ゲージは、セーフティーエリアに置かれる。

主催者は、スピードコースとセーフティーエリア(ジャッジ、競技者、見学者他の)をハッキリと垂直面で示さなければいけない。競技中の機体の一部でもこのセーフティー面を超えた場合、100点がペナルティーと課され、このラウンド得点からではなく、合計得点から減点される。主催者は、セーフティー面通過を監視の為、観測用機器とジャッジを配置しなければいけない。

#### 5. 8. 11 計測員

飛行は2人の計測員で計測される、2人は全ての競技者に同じでなくて良い。

ジャッジは、ルールに従って実施され、時間計測員に正しい距離を飛行した事を知らせる。

#### 5. 8. 12 得点

飛行の結果は、秒及び100分の1秒で記録される。

ラウンドグループ(5. 8. 16参照)結果の以下計算に使用される。

競技者の得点 =  $1000 \times P_w / P$   $P_w$ : ラウンドグループのベスト結果

$P$ : 競技者の結果

#### 5. 8. 13 順位付け

最低4ラウンド実施しなければいけない、この場合最低のラウンド結果が切り捨てされる。  
もし14ラウンド以上実施の場合、最低2ラウンドの結果が切り捨てられる。

同点の場合、5ラウンド決勝ラウンド、これでもの場合差が付くまで6ラウンド以降を実施して決定、  
もしこれが出来ない場合、切り捨てラウンドの点数で最終順位を決定しても良い。

#### 5. 8. 14 競技の運営

競技会はスロープソアリングクラブに適した会場で開催されないといけない。

主催者は、発航場所、着陸場所と飛行機の旋回位置の設置に、地形と風向きを考慮しなければい  
けない。

#### 5. 8. 15 変更

飛行、着陸エリア他の変更は、別のラウンド又はグループで行わなければいけない。

#### 5. 8. 16 気象条件と中断

以下の条件で下では中断しないといけない

a)飛行場所の地上2mの位置で20秒間の平均風速3m/秒以下又は25 m/秒以上。

b)風向きがスピードコースに対して、常時45度以上。

c)降雨の時。

上記条件下では、競技委員長は競技を中断し、選手はリフライト権利を得る。

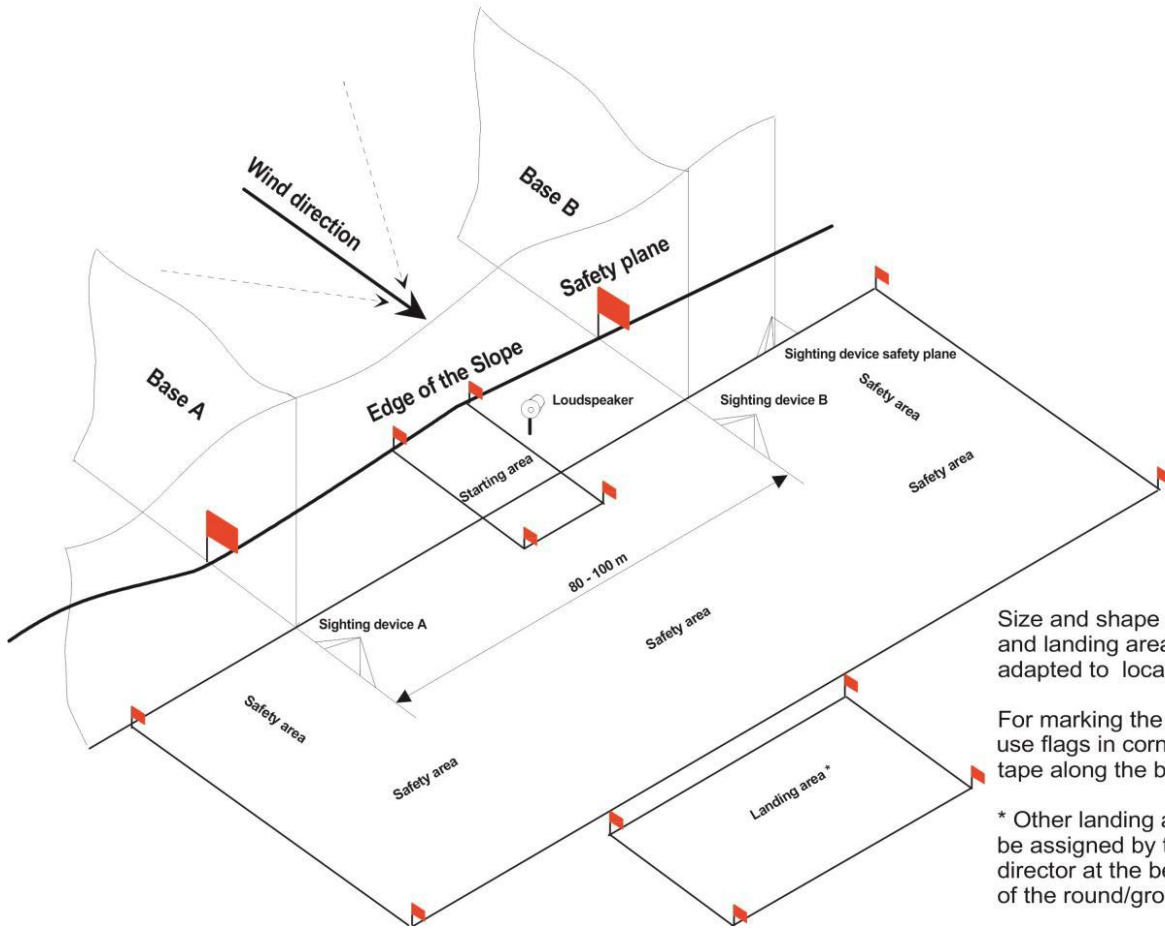
グループは、最低10名以上で全選手を同人数(+1)に分割しないといけない。

競技期間中、気象条件が良ければ1ラウンド1グループが良い、中断が30分以上の場合、グループ先頭から  
再開され、グループ毎に結果が計算される(5.8.12 参照)

#### 5. 8. 16 サイト

要望されるのは、サイトレイアウトを図す。

# F3F Flying Field Layout



Size and shape of the safety and landing area should be adapted to local conditions

For marking the boundary use flags in corners and/or tape along the border

\* Other landing areas may be assigned by the contest director at the beginning of the round/group